資料 10

環境審議会環境計画管理部会委員ヒアリングにおける意見等（主なもの）

（令和２年２月～３月に実施）

１　ＳＤＧｓの盛り込み

- ＳＤＧｓの理念を盛り込むことは**時代の要請**。
- 県の取組みをＳＤＧｓと結び付けて**分かりやすく**整理してほしい。
- 多くの県民が、ＳＤＧｓにまだ**馴染みがない**。分かりやすく丁寧に説明してほしい。
- **様々なチャンネル**を通じて、ＳＤＧｓや県の環境計画を知ってもらう必要がある。
- １丁目１番地は**「連携」**。他分野との連携、パートナーシップが重要。
- 地域の多様な主体との連携、さらには近隣地域との広域的なネットワークづくりに力を入れるべき。環境問題は、これまで以上に**地域性**を広げて考えていくべき課題。
- １０年前の計画を策定したときとは企業の意識が全く変わっている。**ＥＳＧ投資**等の視点、社会資本整備や土地利用における**グリーンインフラ**の視点が重要。

２　環境計画全体の構成等

- 現行の環境計画の**６本柱**は分かりやすいので、次期計画も同じ６本柱がよい。
- 環境問題は**災害や危機管理**とリンクする問題なので、その点を意識して計画を策定してほしい。
- 森林ノミクス、やまがた百名山など、これまで展開してきた**山形らしさ**を更に拡充してほしい。
- 再エネの「原発１基分」のような**わかりやすいメッセージ、意欲的な目標を設定**するのがよい。そうすることで山形県が注目を浴びるし、支援してくれる人も増える。

３　県民の意識醸成

- 課題は山積みであり待ったなしだが、一般の人は思っていない。一番大事なことは、**人々の意識改革**。
- 県民一人ひとりが、今より少しでもいい方向に**行動**を起こすことが大事。
- いかに他人事でなく**「自分ごと」**として物事を考えていくか。関心を持たせることが非常に難しい。
- **実際に体験**した人に会ったり、肉声を聞いたりすることが一番効果がある。
- **若い世代**への意識付けが重要。

４　計画の普及

- **実効性**のある計画を策定してほしい。
- 県の計画は、一般県民が読んで**理解できるもの**がいい。必要以上に細かくならない。難しい単語を使いすぎないのがいい。
- 誰が何をするかという**具体性**が必要。最近の事例や具体的な問題に直面している切実なエピソードを入れると読みやすいものになる。
- **情報伝達の手法**をよく考えないといけない。スマートフォン等、ＩＣＴをいかに活用するかという時代。分かりやすく伝えるためには、紙媒体の配布だけでなく映像なども活用するとよい。
- **企業（特に中小企業）にとってのメリット**を示すことが重要。

５　分野別

- **「健康住宅」**は山形県独自の非常にいい施策であり、温暖化対策としてもいい施策。温暖化対策としてもそれを引っ張ってあげるといい。
- 地球温暖化対策は、**もっとポジティブ**に、新しい産業が生まれ、新しい社会を築いていくという、そういうメッセージを出す方がよい。
- 地球温暖化対策については、県民、事業者にもっと積極的に取り組んでもらうため、県、各市町村での**説明会等を開催**して呼びかけてはどうか。
- いろんな再エネが作られてきているが、それをどうやって**地域**で使っていくかという、使う側の部分をもう少し進めていくことが大切。
- **内陸の人も海洋ごみ問題**について意識を持つことが必要。山形県には最上川があり、川から海へというイメージを持ちやすい。
- 目標達成ができていない**一般廃棄物のリサイクル率**についてもしっかり取り組むべき。
- **廃棄物の適正処理とリサイクルの両方の推進が必要**。また、低炭素社会を踏まえ、**焼却熱の利用**なども考えていかなければならない。
- 「環境教育」というよりも**「環境リテラシー」**、つまり正しい環境の「考え方」が大事。
- 環境教育分野では、先進的、リーダー的な団体や人（大人も）を**育てていく取組み**も盛り込めればよい。